

**授業概要**

初学者を対象として、西洋の倫理学の現代的な課題を講義し、「自由に考える」ことの難しさを感じながら、共に考えます。現代的な課題とは、たとえば、企業は何のためにあるのか、将来世代のための義務はあるのか、転売行為は非難されるべきか、なぜ道徳的に振る舞ったほうがよいのか、などです。こうした問題について共に考えるために、前半では哲学者の思想を講義します。後半ではそれらの思想をもとに、哲学的な思考の練習を行います。

**授業計画**

第1回	倫理学は何をすところか
第2回	(1) 古代ギリシアの倫理学 ソクラテス、プラトン
第3回	(2) 古代ギリシアの倫理学 アリストテレス
第4回	ヘレニズムとローマの徳と幸福の概念 ストア派、エピクロス派、キケロ
第5回	キリスト教の徳と幸福の概念 プロティノス、アウグスティヌス、トマス・アキナス
第6回	ルネサンス期の倫理学 人間の尊厳と戦争の倫理
第7回	アダム・スミスと共感の倫理学
第8回	カントと義務の倫理学
第9回	レポートの書き方
第10回	ミルと満足の倫理学
第11回	20世紀および21世紀の倫理的課題
第12回	(1) 応用倫理学 ビジネス倫理 企業は何のためにあるのか
第13回	(2) 応用倫理学 ビジネス倫理 ステークホルダー理論
第14回	(3) 応用倫理学 グローバルエシックス、世代間倫理
第15回	全体のまとめ
第16回	筆記試験

**到達目標**

- 各講義終了後に、倫理学史を通じて倫理学の基本的な問題の繋がりを理解し説明できる。
- 倫理学の教養を身に着け、様々な視点から現代の倫理的課題に向き合うことができる。
- 応用倫理の問題について、他者に関かれながら、自分がどのように考えるかを表現できる。

**履修上の注意**

- 遅刻3回で欠席1回とします。ただし、初回講義は履修上の注意を行うため必ず出席してください。
- 「質問」は可能な限り、いつでも、なんでも、対処します。
- 高校卒業程度のヨーロッパの歴史（世界史）の知識は、前提ではありませんが、あると役に立ちます。

**予習復習**

- 各講義開始時に前回の簡単な復習を行います。歴史事項的な内容については筆記試験対策も兼ねてしっかりと復習すべきです。
- 倫理学でも、哲学的に「考えること」と「言葉を使うこと」は予習の課題となります。講義の最後に、次回に関連する簡単な課題を課す予定です。

**評価方法**

- 筆記試験（テーマ事前指定）80%
- 平常点（リアクションペーパー）20%

**テキスト**

特に指定しません。参考となる、哲学者の著作や、日本語で読める文献については、各講義において紹介します。